国立大学法人 福島大学 Fukushima University

プレス発表資料 2

平成 25 年 10 月 16 日

文化庁「平成 25 年度被災地における方言の活性化支援事業」
～福島県内被災地方言情報の web 発信～

事業の目的

本事業は，福島県浜通りおよび北部阿武隈高地の方言情報を発信する web ページ構築を目的とする。東京電力の原子力発電所事故による県内外での避難生活が長引く中，被災された方々がふるさとの方言を懐かしみ，気兼ねなく自らの方言を話したいという思いを抱いていることが，昨年度福島大学が実施した「東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業(福島県)」によって明らかとなった。一般の方々が容易にアクセスできる，当該地域方言の web コンテンツの充実は，被災された方々のこうした思いへの一助となりうる。

事業実施体制

責任者　　半沢康(福島大学人間発達文化学類･教授)
分担者　　本多真史(福島大学人間発達文化学類･研究員)

事業計画

⑴被災地方言の補充調査

昨年度の事業において県内被災地方言の自然談話資料収集を行なったが，地域が広域に及ぶため全地域の調査を終えることができなかった。調査データが不十分な自治体について補充調査を行なう。

昨年度と同様に仮設住宅等を訪問の上，被災された方々から被災状況等について自由に語っていただき，方言自然談話を収集する。

⑵福島県内被災地の方言情報を発信する web ページの構築

(1)の作業と平行して web ページの作成作業を行なう。掲載するコンテンツとしては①震災時の経験を語った談話資料，②浜通り各地，阿武隈高地を対象とした「音声言語地図」(通常の言語地図に音声ファイルをリンクし，地図上の記号をクリックすると語形の発音が確認できるような地図)などを想定している。

（お問い合わせ先）
人間発達文化学類・半沢康
Email:yhanzawa@educ.fukushima-u.ac.jp